

細田多穂, 柳澤 健(編)

理学療法ハンドブック [改訂第4版] 全4巻セット

山元総勝

(熊本保健科学大学リハビリテーション学科)

本書は、理学療法の基礎から評価・治療アプローチ・疾患別プログラムならびにシングルケーススタディまでを一覧することができる、理学療法士必携の実践マニュアル版である。1986年に初版が刊行された後、2000年に「理学療法の基礎と評価」「治療アプローチ」「疾患別・理学療法プログラム」に分割され、改訂第3版全3巻セットとなった。そして今回、新たに第4巻として「疾患別・理学療法の臨床思考」が追加され、さらに内容が充実した臨床現場で即活用できる実践書となった。

第1巻は、解剖学・生理学・運動学を統合して、理学療法士として知っておくべき基礎知識・考え方から、触診法・動作分析・運動機能解析などの実際が網羅されている。また、対象疾患の病態を理学療法士の観点からまとめてあり、代表的疾患の評価の進め方についても具体的に解説されている。

第2巻は、代表的な徒手理学療法やバイオフィードバック機器・理学療法機器を用いた治療手技の基礎概念と、臨床的意義から治療・訓練の実際が細説されている。また、物理療法によるアプローチについての最新知見も紹介されている。

第3巻は、理学療法士が臨床で遭遇する中枢神経疾患・整形外科的疾患から、スポーツ傷害・呼吸器疾患・心疾患など代表的疾患に関する基本的事項がまとめられている。また、各疾患の臨床像と評価や理学療

法プログラムの考え方が詳説されている。

第4巻は、臨床現場で即使える実践書である。全国の第一線で活躍している理学療法士が、実際に経験した25症例について報告している。代表的疾患について症例紹介・理学療法評価・問題点抽出と、それに対する理学療法プログラム・理学療法の実際・経過・症例に対する考察とポイントなどが項目ごとに整理してあるので大変わかりやすい。また、CTやMRI、術前術後のX線、ECG、冠動脈造影検査、血液・尿などの生化学・生理学的検査の臨床検査値も提示されている。写真やイラスト図も多数取り入れられており、具体的な理学療法内容を紹介してあるので、イメージしやすい。

現在、理学療法対象疾患は多岐にわたっている。「神経系疾患」「骨・関節系疾患」「内部障害系疾患」などと専門領域が大分類され、それぞれがさらに専門機能分化してきている。対象の拡大・専門機能分化に対応していくためには、基本的で幅広い知識・技術を習得する必要があり、これまでの臨床経験に基づく理学療法の効果を客観的、かつ科学的に証明するEBPT(根拠に基づいた理学療法:Evidence Based Physical Therapy)の実践が不可欠である。

このように生涯学習として自己研鑽を進めることが、理学療法士の水準を維持・向上するために大切である。本理学療法ハンドブックは、学生から臨床・教育・研究分野に従事するすべての理学療法士のEBPTを実践するためのエンサイクロペディアとなるであろう。

●B5判・①巻1,204頁、②巻882頁、
③巻698頁、④巻330頁
定価23,100円(本体22,000円+税)
2010年3月 協同医書出版社・刊